

## 「違和感の根源にたどり着いたお講義でした」

櫻井尚美 企業購買 職（バイヤー）

私の父の無くなった姉は聴覚障害がありました。ご夫婦で聴覚障害がありました。叔母は、幼い頃肺炎に罹患した肺炎が起因して視覚障害を負い、盲学校の寄宿舎で生活して、鍼灸師になり、温泉街のあんま師をしていました。

身近に障がい者がいたこともあるのですが、私は、心のどこかに誰かの役に立ちたいという気持ちを持っていました。一方で、私の感覚と社会の違和感を感じていました。その違和感は、何か突き詰めて考えたことはありませんでしたが、障がい者を表に出さない。閉鎖的な場所に隔離する。そういう社会だったのかもしれないと思います。

高校生のときに、ホームステイ先のファミリーに脳性麻痺で車椅子生活の同年代の女子がいました。

彼女は自力で車椅子を動かすことが出来ませんが、活発に日常生活を送っていました。野球観戦や買い物にも行きますし、人々のサポートは必要ですが普通に生活をしている姿を目の当たりにし大変驚きました。

そのとき感じた衝撃は、私が幼い頃に感じた社会の違和感のギャップを埋めるものでもありませんでした。

その後私は、社会福祉の勉強を始め、重複障害者施設や児童自立支援施設に実習に行きましたが、障がい者の隔離や自由の無い生活を見て、息の詰まる思いがしてその後の道を断念しました。

当時は、人の役に立ちたいというボランティア精神にあふれ福祉の門をたたきましたが、現実との違いに大きなギャップを感じ挫折を感じました。

時が流れ、再び福祉の世界の扉を開きましたが、当時とは違う視座で考えることが出来るような気がします。

今回の講義の内容は、私が感じていた違和感の根源にたどり着いたような気がしています。

当時とは違った視点で、現状を正しく理解することが出来ました。

とても、胸に刺さるお話ありがとうございました。